

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成30年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

目 次

1. 概況	・・・	2
2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	・・・	3
2－ 1 ポニーキャンプ		
2－ 2 蓼科ポニー牧場		
2－ 3 相馬ポニー牧場		
2－ 4 小貝川ポニー牧場		
2－ 5 目黒区碑文谷公園こども動物広場		
2－ 6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場		
2－ 7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場		
2－ 8 万騎が原ちびっこ動物園		
2－ 9 板橋区こども動物園本園、高島平分園		
2－10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場		
2－11 海老名ふれあい動物施設		
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	・・・	8
3－ 1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）		
3－ 2 治療的乗馬研究集会		
3－ 3 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業		
4. 川べり環境の整備及び活用の推進	・・・	9
4－ 1 カヤック教室・水辺でのプログラム		
4－ 2 河川騎馬パトロール		
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	・・・	10
5－ 1 プロジェクトM		
5－ 2 日独青少年相互交流計画 2017		
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	・・・	10
6－ 1 機関誌の発行		
6－ 2 夏キャンプ募集チラシの発行		
6－ 3 WEB広報		
7. その他	・・・	11

1. 概況

30 年度、事業計画の重点施策として

- ①事業のあり方を総点検し、安定した経営基盤を築く
- ②委員会（研修、評価制度、安全、新拠点開設）を設置し、進める

の二点を挙げた。

両施設合わせて事業収益の 30%を担う相模原、碑文谷の指定管理者更新に際して、顧問、理事、評議員の皆さんの知恵も借りて提案書を作成し、各事業所の職員が施設整備、大掃除に駆けつけるなどした結果、いずれも次期 5 年の指定を受けることができた。また、新拠点開設のために前年度応募した茨城県河内町の廃校利用候補者となり、こうした動きの中で、これまでのやり方にとられることなく、より多くの人に必要とされる事業、喜んでもらえる施設について議論と研究を重ねた一年となった。

決算を見ると、収益、費用共に前年度比マイナス。増減では収支、対前年度比共にプラスとなったが、これは前年度まで継続されていた長岡キャンプ・グランドポニースクールや帯広畜産大学への職員派遣が前年度で終了したこと、国際交流事業実施の有無（モンゴル事業復活。ドイツ派遣は隔年で実施）の他、リース物件見直しや年々高騰している動物用飼料の厳密な再計算並びに絞込みをしたこと等、因果関係ははっきりしている。

今後の展望としては、30 年度、または 30 年度までに種まきをしてきたこと（乗馬倶楽部振興協会や障がい者乗馬関連の研究会での他団体・有識者との連携、RAC 全国大会での出会いと河川騎馬パトロールについての実験。大学や他団体との連携による乗馬活動に関するエビデンスの獲得等）がここ 1～2 年で具体化、実現に向けて加速するといった感触を得ることができ、大変楽しみである。

この楽しみを確実なものにするためにも、人材確保と職員のレベルアップが急務であり、早期の職員採用、安全や職員間の円滑なコミュニケーションを確保するための研修、原点に立ち返り、理念を再確認するための代表と対話する時間の確保（食事会）、といったことを研修委員会、運営委員会を中心に進めてきた。併せて、個々の職員の目標設定や課題の自覚のためにも、評価指標と仕組み作りを引続き行っていく。

2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

2-1 ポニーキャンプ

○ 計画との差異とその要因

海のキャンプとして市と連携し「勝浦キャンプ」を計3回実施した(2年目)。市側からも参加者からも好評を得て、今後も継続実施予定。昨年受託していた長岡ポニーキャンプ(2本)・「東日本大震災被災地の子ども達にキャンプを贈る会」の計3本がなくなったが、長期キャンプを3本増加・短期キャンプを2本増加したため、昨年比で2キャンプの増加となった。夏休み・冬休みの参加者が少なく、昨年比全体でマイナス112名の参加者となった。

○ 長期キャンプ…学校の長期休業中(夏、冬、春)に実施したもの。(詳細はデータ集参照)

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	15	663
②	小貝川ポニー	6	66
③	八ヶ岳登山	1	18
④	勝浦	2	29
⑤	河口湖スケート	1	16
⑥	南志賀スキー	2	70
計		27	862
29年度		24	879
差異		3	△17

○短期キャンプ・・・週末、連休に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	6	114
②	奥秩父野外	1	17
③	勝浦	1	12
④	河口湖スケート	1	15
⑤	ファミリーキャンプ(蓼科)	8	161
⑥	六日町雪遊びスキー	1	28
計		18	347
29年度		16	359
差異		2	△12

○受託キャンプ・・・外部からの依頼で実施したキャンプ。

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	いちごっこキャンプ	1	19
計		1	19
29年度		4	102
差異		△3	△83

2-2 日帰り企画

昨年の「部活動」からパワーアップし、5歳以上の全ての人に様々なアクティビティを楽しんでもらおうと、「HAC（ハーモニアクティブチャレンジ）」を開始。代々木での野外体験や小貝川、勝浦市でのプログラムなど、年齢を問わず好評を得た。

○事業結果

	企画名	実施回数	参加者
①	HAC	11	161
②	ハモフェス	1	27
	計	12	188
	29年度	7	147
	差異	5	41



*「ハモフェス」は11月に開催したハーモニフェスティバル（旧「親子祭り」）

2-3 移動動物教室

天候により中止になったものもあるが、逆に前年度に中止になったものが行え、前年度と大差なく開催できた。先方が希望した時のみ予備日を設定している。

蓼科：7回 小貝川：31回 海老名：25回 相模原：43回

2-4 蓼科ポニー牧場

1. 宿泊団体の牧場利用

自主事業のキャンプ以外は、OB会や、広場キャンプでの活用が中心。ライダーズカップに向けて、関東の事業所で体験できない練習を求めて、蓼科の利用が意識されてきた。同時に学生の研修会での利用も目立つ。全14回。参加者数は374名。

2. 日帰り団体の牧場利用

地元での認知度を高める意識で、本年より未就学児の牧場利用を育児支援プログラムとして始め、87名の参加があった。

3. 蓼科ジュニアポニークラブ（TJPC）

小1～中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通した活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、定員30名が妥当な規模だと考えられる。

月謝制¥5,500/1名。



計	のべ参加者数	行事
22回	300名	前後期保護者会（年間活動・役員選任）、合宿（海水浴） ライダーズカップ、八ヶ岳ホースショー

4. 移動乗馬教室

計7回 27頭

5. 牧場レッスン・引き馬

牧場レッスンは前年度比プラス200と増加傾向にある。本年より障がい者乗馬のレッスンを開始し、サイドウォーカーの必要な肢体不自由児のレッスンに取り組んだ。

6. その他

(ア) デイキャンプ（参加者数 29 人）

三井の森別荘在住者を中心として、夏休みポニーキャンプに 1 日体験参加するもの。

(イ) ポニーステイ

長野県長野市立篠ノ井西小学校にゴマシオを無償貸与した。

【まとめ】

29 年度は前年に続きレッスン・引馬の数を増加させる努力が実った。キャンプのない週末にカウンセラーOB 会、個人利用を促進した。

2-5 相馬ポニー牧場

施設の利活用では、南相馬市に除染物土の仮置き場として前年度に引き続き放牧場を、南相馬市内の通所施設運営団体に職員宿舎を貸与した。

長期的な展望を考えていく中で、解体を含めた費用の計算と、対東京電力賠償請求についての検討を進めた。東京電力への賠償請求は東電側が設定する対象期間の支払いが終了したことから、専門の弁護士を紹介してもらい原子力損害賠償紛争解決センターに対する和解仲介申立てを行なう準備を開始した。

2-6 小貝川ポニー牧場

1. 昨年度に続き、本部と連携してキャンプ、HAC 実施し、新たな利用者の開拓に繋がっている。
2. 今年度新たに流通経済大学（竜ヶ崎市）と連携し、「牧場作業と馬と学生」をキーワードに地域の活動の場として開放。小貝川キャンプやMTB の修繕など、様々な場面に参加する学生も出てきている。
3. RAC、小貝川プロジェクト 21 と連携して「RAC 第 18 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 小貝川（利根川水系）」の運営を担い、当日は他事業所の職員やカウンセラーの力を借りて、大会を成功させることができた。
一方で、異常気象の影響を大きく受けた年でもあった。台風や大雨によりカヤック教室や川遊びプログラムが中止になるなど、乗馬を含めた夏季プログラムの利用者が落ち込んだ。加えて、週末や祝日にレッスンの希望が集中し、お断りするという問題が残る。
4. 移動乗馬教室のための馬派遣を積極的に行った。
5. ポニーの老齢化が予てより問題になっているが、功労馬を福島県にある養老牧場（グループホーム天栄夢の丘・ポニー牧場一般社団法人協働福祉事業団）に送り、同時に新馬を購入した。蓼科や各広場との連携を取りながら入れ替えを図っている。



2-7 目黒区碑文谷公園こども動物広場

（指定管理者 5 年指定の 5 年目）

本年度は、指定管理者 5 年指定の 5 年目を迎え、基本方針である「地域住民との協働や公園活性化等」を一層大切に運営した年となった。子どもから年配者まで、地域の居場所となるようスタッフ一同日々心がけ、基本事業である小動物とのふれあい、引き馬、ポニー教室（個人・団体）の他、職場体験受入（通年）、ポニーまつり



(5月)等を実施した結果、昨年度を上回る来園者数に繋がった。また、近隣農家・施設と連携し、動物の排泄物を野菜の堆肥作りに役立てていただく他、新たに「NPO 法人スポルテ目黒 14周年イベント」を共催し、「ポニーとのふれあい・にんじんあげ」コーナーとして参加する等、地域との繋がりを強めた。

要望の声が高いポニーキャンプは、昨年度冬季一回の実施だったところ、本年度は夏季と冬季の二回実施した。日頃ポニー教室や動物クラブで培った力を楽しみながら発揮してもらうとともに、子ども達の更なる心身の健全育成に繋がる時間として、今後も大切にしていきたい。

一方で、課題としては、ポニー教室(個人)や動物クラブの参加者数が伸び悩んだことが挙げられる。異常気象の影響もあるが、「雨で乗馬できなくても行きたい」と感じてもらえるよう見直し、工夫を図っていく。

2-8 葛飾区水元スポーツセンター公園子ども動物広場(ポニースクールかつしか) (受託 1年契約)



29年度は、ポニースクール、区役所担当者双方が一新したため、互いに「仕様書に基づく運営」を意識した1年となった。結果として、委託者側との関係がより強固なものとなり、事務所棟のエアコンの入れ替え、厩舎へのエアコン新規取り付け、跳び箱・マットなどの備品入替が次年度に実施される運びとなった。また、「子供の教育」については職員の意識をそろえ、学校や家庭と違う学びの場としての位置づけを高めた。乗馬に関しては職員の技術向上に努めると共に、子供が安全に楽しく学べるよう、軽乗、乗馬の

指導内容を見直し、強化した。

また、当会主催のキャンプやポニーライダーズカップ、小貝川ポニー牧場をはじめとする他事業所にも葛飾の子供の活動範囲が徐々に広がり、子ども同士の交流の輪が広がってきている。

課題としては、特定の曜日(騎乗できる日)にしか来ない子供がいるので、「ポニー以外」のこともポニースクールに来る子供を増やす努力を引き続き行う必要がある。

2-9 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理者 5年指定の5年目)

次期指定管理に向けて団体が一丸となり、サポートした一年になった。5月から休園日毎に各事業所より総勢10名以上の職員が集まり、馬場柵のペンキ塗り、植樹帯の落ち葉清掃、事務所の床磨き等協力して施設整備を行った。

前年に続き、他の動物園から貸与いただいている動物たちの展示場所を変えるなど、利用者にとって、より動物と親しみやすい展示方法を模索した。

また、産学協同事業も始まった。麻布大学では学生の実習指導、東京農大では、菊池顧問の協力を得て、研究に協力した。また、その繋がりで、学生や卒業生に向けて、動物広場での子どもたちの日々の活動や変化などについて発表する機会を得た。

近年、異常気象による来場者の激減が課題となっている。利用者増に向けて努力していきたい。



2-10 万騎が原ちびっこ動物園 (受託 4年契約の4年目)



本年度は、施設の改築やコンタクトコーナーの時間変更等、本園である野毛山動物園と協議を重ね、協力を得ながらいくつかの改革を行った。

施設は、次のように改善された。

重く、老朽化が進んでいた獣舎内の扉を全て軽いものに付け替え、開閉がしやすくなったことで作業効率をあげることができた。

老朽化が激しかった木製の来園者用手洗い場がコンクリートで塗り直された。さらに水道周りに雨水が溜まってしまうことも課題だったが、傾斜を作ることで改善され、使用しやすくなった。

コンタクトコーナー内の日除けネットを張ることが難しいエリアにパラソルを設置し、陽射しが強い日のふれあいスペースの拡大、確保ができた。

その他、レーザープリンターや大型扇風機、インパクト等、資材の導入があった。

コンタクトコーナーの時間変更は、動物への負担が考慮され、開園時間を4時間25分から3時間30分へ短縮し、6団体だった利用枠を3団体に変更した。

次年度も引き続き本園との良好な関係を築き、質の良いプログラムを展開していくとともに、利用者増加に努めていきたい。

2-11 板橋区こども動物園本園、高島平分園 (受託 1年契約)

こども動物園本園は、大規模改修のため長期休園に入った。休園前最後の開園日である7月1日には、多くの来園者が訪れた。常連の方はもちろん、「子どもが小さかった時によく連れて来ていた」「改築と聞いて、今の動物園を最後に見ておきたくて久々に来た」という方もおり、閉園時間ギリギリまでお気に入りの動物を眺めたり、思い出話に花を咲かせたりと、思い思いに楽しんでいる様子がみられ、コンセプトである「区民の庭」として長年親しまれてきたことを実感する1日となった。

本園の長期休園にともない、8月からは東板橋地域出張動物園がスタート。休園期間中、地域の方が気軽に動物とふれあうことができる機会、動物クラブの子どもたちが活躍する場となっており、好評を得ている。また11月には、毎年本園で行なっていた「親子まつり」を分園の規模に合わせた「分園ミニ親子まつり」を初開催。不安定な天候であったにもかかわらず、繁忙期の土日を上回るような数の来園者が訪れた。

高島平分園は、上半期の利用者数は減少がみられたが、本園利用者が分園にも来園することにより、年間合計は前年度を上回る結果となった。動物クラブの参加数はやや減少してしまったものの、スタッフからの声かけ等、子どもたちとの関わり方を意識したことで、子どもたちが目標や挑戦したいことを口にする様子が多くみられるようになり、意欲は高まってきているように感じられる。新規登録希望者も多くいるため、子どもたちのやる気をサポートし、また行きたい、続けたいと思ってもらえる活動を心がけてゆく。

本園のリニューアルオープン(令和2年8月)に向けても重要な時期であるため、今後も板橋区との信頼関係を大切に、利用者からの期待に応えられる運営をしていきたい。



2-12 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

(受託 3年契約の3年目)

年間の利用者総数、ふれあいコーナー、引き馬については減少しているものの、皆で力を入れているポニー教室・動物クラブの参加者については増加した。利用者減少の原因として、動物の保有菌検査で引っかかり、ふれあいコーナーを2ヶ月閉鎖した事と、夏場の猛暑により約30日間もふれあいコーナー・引き馬を休んだことによるものと推察する。

今年も昨年に続き11月と12月にミニイベントを2回開催した。募集人数一杯の参加者が集まり、今後もこのような企画をして欲しいとの声を頂いた。

区の担当者とも相談しながら、仕様書に沿って活動するばかりでなく、利用者に喜ばれるプログラムを行うことで、多くの利用者の増加に努めていきたい。

また、馬小屋、やぎ・ブタ舎・リスザル舎に計4台のエアコンを設置して頂いた。夏場の動物達の疲労感が減少するとともに、冬場の寒さに弱い動物にとっては心地よい環境を得られたことは、動物たちにとって良かった事であった。

来年度夏にまた入札が行われるが、引き続きこの広場の運営が出来るよう、努力していきたい。



2-13 海老名ふれあい動物施設 (受託 1年契約)

引き馬、モルモットふれあいは若干減少しているものの、総来場者数(来場者と出張時利用者を合わせたもの)など、全体的には増加傾向にある。

夏場がとても暑く、来場者の落ち込みがめだった。

しかし、ポニー教室については夏・冬・春だけではなく6月も多くの申し込みがあったため、需要があることがうかがえた。

また遠足などの団体利用・派遣出張の要請は依然、増加しており、運動公園にポニーや小動物がいて、こんな利用方法もあるという認知度も上がってきたと思われる。

29年度は時短職員を含めた職員4名とアルバイトで業務を行っていたが、30年度は職員3名とアルバイトで業務を行うことにより業務内容の整理を行った。



3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 ポニーカーニバル (新潟県長岡市)

9月29日センターハウス(地区公民館)にて6頭のポニーで小学生・障害児を対象に、ポニーとのふれあい、乗馬を体験していただいた。9月30日には恒例のポニーカーニバルが行なわれ、ポニースクールかつしかの子ども達が軽乗演技を披露した。

3-2 治療的乗馬研究集会

特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会が主催し、当会を含め一般財団法人日本障害者乗馬協会、特定非営利活動法人 RDA Japan の3団体が共催して、2月23日・24日に第14回「治療的乗馬」研究集会を開催され、企画・運営に参画した。来年度より「ゆるやかネット」の主催で開催されるが、当会も引き続き参加し、他団体との連携をより強固なものにしていきたい。

3-3 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業

東三鷹学園三鷹市立第一小学校において、3年生を対象に、年4回「乗馬による体力向上プログラムの構築事業」を実施。令和2年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催され、馬を使う競技があることから（近代5種・馬場馬術・障害飛越・総合馬術）、子どもたちに馬の魅力や関わりの難しさ、パラリンピック選手の方々のごさなどを体感してもらい、競技への興味が広がるように授業を進めた。学校側は総合学習としての意味を求めており、両側面からアプローチをした。

年によって、担任の先生の方針によって子どもの雰囲気は変わる。30年度の3年生は全体的に幼く、なかなかポニーたちに対しての興味を持ってもらえなかったが、回を重ねるごとに、子どもたちの集中力やポニーに対する関心が高まっていく手ごたえがあった。

関わる職員も、相模原・代々木だけでなく、碑文谷と葛飾の職員が新たに加わった。葛飾の職員は学生時代新体操をやっていたことから、乗馬につながる体操を乗馬待ちの新たなプログラムとして行った。

来年度も、市と学校双方の要請に応えられるよう、職員同士連携しながら進めていきたい。

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム



NPOプロジェクト21、RACと協力して、運営・実行委員会を設置し『第18回川に学ぶ体験活動全国大会 in 小貝川（利根川水系）』を開催した。「水辺体験で育つ力」をテーマに、小貝川の水辺で行ってきた河川敷のニー教室に参加者（小学生）が発表した。また、カヤック教室や水辺でのプログラムを安全に開催する為、NPO法人川に学ぶ体験協議会（RAC）事務局長でもある斉藤理事によるカヤック講習を平日の午前中に実施。安全確保やカヤックの操船・指導法などの実践講習を行った。活動場所の確保と河川敷整備のため、ゴミ拾い、草刈を通年実施した。

4-2 河川騎馬パトロール

6月3日、12月1日に「河内チャレンジスクール」として実施し、10月13日には上記全国大会の分科会で「河川騎馬パトロールの可能性」というテーマで発表し、プレエクスカーションと銘打って、牧場近くの小貝川緑地周辺で河川騎馬パトロール体験会を開催した。

3月24日には京都府の南山城村・笠置町・和束町の相楽東部で新たな水辺のアクティビティの可能性調



査・検証を進めるイベントに河川騎馬パトロールが選ばれ、山城地域の木津川にて実施した。
また、小貝川・利根川のみで展開してきた河川騎馬パトロールを全国展開するための調査として桂川、宇治川、木津川の3河川合流地点（八幡市・背割り堤）と九州筑後川の視察を行った。（河川基金助成事業）

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5-1 モンゴル大草原乗馬交流

数年間空いた本事業を再開した。高校生以下の参加者が7名と半数を超え、モンゴル文化教育大学の学生だけでなく、馬術学校の指導者との交流も積極的に行った。新たなパートナー探しも進めたが、費用、内容共に折り合わなかったため、シリボラグキャンプ場・モンゴル文化教育大学、旅行社はHASという従来のネットワークで再開した。

日程 : 8月3～10日
参加者数 : 13名（参加者12名、引率1名）
内容 : トレッキング・ナーダム見学・外乗・遊牧民ゲル訪問お別れ会 等



5-2 日独青少年相互交流計画 2018

過去渡独参加者が受け入れの中心となって活躍してくれ、例年以上に青少年の交流が活発となった。また、勝浦市でのプログラムや筑波大でのGボール体験、ドイツ大使館の訪問など、関係機関の協力も得ることができた。

日程 : 10月12日～29日 : (18-23日 宮城県大崎市鳴子滞在)
参加者数 : 14名（参加者13名、引率1名）
内容 : 大使館訪問、乗馬体験、Gボール体験、勝浦市訪問、さよならパーティ等
今後の展望

近年は、ドイツからの派遣者数に比べて日本からの派遣者が少なく、今後の望ましい継続のためには、カウンセラーやジュニアカウンセラーへの呼びかけ、ブログやSNS、広場での広報、ドイツ交流に関心のありそうな新たなパートナーの発掘、ドイツ大使館や観光局への後援申請等、あらゆる手立てを執行し、日本側参加者を増やしていく。また、今後継続的に協力してもらえる団体・行政等とのパイプ作りをしていく。

6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として発行した。(2,500部印刷)

サイズはタブロイド判とし、基本は4面（長期休暇前の6月号と12月号は6面）印刷。4面刷りの場合は1面と4面がカラー印刷。6面刷りの場合は1・3・6面をカラー印刷とした。キャンプに関心がある保護者層（20代～40代）が手に取りやすく、参加する子ども達を楽しめる内容にするため、写真を多く取り入れ、内容も毎月楽しめる様にシリーズものを増やした。

キャンプ・移動乗馬等での関係機関への配布を強化した。

6-2 キャンプ募集チラシの発行

動物広場での頒布やキャンプ参加者へのお知らせを強化するため、代々木で内製し各広場で配布した。

6-3 WEB 広報

より参加者が見やすく・クレジットでの支払いが実施出来るよう、HP を変更した。それに伴い各広場のブログを統合。また SNS は今までの Facebook だけでなく Instagram も活用。より多くの方に見て頂ける機会を創造している。

7. その他

7-1 規程変更

法改正、職員実態に合わせて就業規則、賃金規程、処務規程、役員等報酬規程を変更した。

7-2 馬の管理

財団所有馬 83 頭、行政（板橋区・海老名市）より預託馬 6 頭、引退競走馬支援団体より預託馬 1 頭、全 90 頭を管理。高齢馬の入れ替えを進めつつ、若馬 6 頭を購入。8 頭を譲渡。ポニーステイ事業として、篠ノ井西小学校（長野県、公立）に 6/25～3/1 まで無償貸与した。

7-3 人材育成

① ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を 5、6 月の間に 6 回実施。加えて麻布大学（11 名登録）、日本大学（22 名登録）、国際動物専門学校（13 名登録）、流通経済大学（11 名登録）での訪問説明会を実施した。

- インターネット募集情報掲載：アクティボ
- 大学・専門学校募集ポスター掲示 72 校掲示

② 登録カウンセラー数（31 年 3 月時点）

継続登録者数	新登録者数	合計
80	121	201

○ 総評

大学でのポスター掲示や HP・ボランティアサイトからの申込数は減り、大学・専門学校の授業の時間をもらっての説明会での登録が約半数と多かった。今後関係ある学校等での説明会を多く実施し、登録に繋げていきたい。

○ 課題、将来展望

夏キャンプの質を保つためにも夏前の蓼科での研修に多くの新人カウンセラーが参加するように促していくことが必要。

③ 職員研修会

- 5/21 マナー講習（引き馬、馬装といった事業所業務の基礎講習を含む）
- 7/9 普通救命講習
& グループワーク

- 9/10 リスクマネジメント講習
- 11/19 リスクマネジメント
&コミュニケーション
- 2/18 ハーモニセンターの
歴史を聴く会
- 2/11～16 乗馬研修



7-4 マイクロバス購入

独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を得てマイクロバスを購入し、小貝川ポニー牧場に配備した。

7-5 新拠点

前年度（平成 29 年 12 月）に茨城県河内町では廃校活用事業者募集に応募したところ、新年度に入った 4 月 25 日付で「利用候補者として決定する」との審査結果をいただいた。その後、宿泊施設として使用するために必要な手続や改修工事についての調査を続け、12 月開催の理事会で使用開始の決議をしたものの、「町有財産使用賃貸借契約書」の「返還時の原状回復」や借入の返済について危惧されることから、引続き町との交渉並びに事業計画・収支計画の練り直しを進めてゆくこととなった。

7-6 会議等

- ① 理事会・評議員会
 - 第 1 回理事会（5/31）
 - 1 平成 29 年度事業報告案、決算案の件
 - 2 定時評議員会開催の件
 - 3 平成 30 年度スポーツ振興くじ助成金の件
 - 4 河内町廃校活用の件
 - 第 2 回理事会（書面）
 - 1 オリエンタルコンサルタントへの協力
 - 定時評議員会（6/16）
 - 1 平成 28 年度未精算仮払金の件
 - 2 平成 29 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認の件
 - 第 3 回理事会（9/27）
 - 1 みずほ小（河内町廃校）活用の件
 - 2 規程（賃金規程、処務規程）改正の件
 - 3 評議員会開催の件
 - 4 麻布大学との協定の件
 - 5 板橋こども動物園受託（指定管理）の件
 - 第 4 回理事会（12/11）
 - 1 みずほ小（河内町廃校）活用の件
 - 2 労務関連規程の改正等について
 - 臨時評議員会（12/22）
 - 1 役員等報酬規程変更の件
 - 2 旧みずほ小学校活用の件
 - 第 5 回理事会（3/12）
 - 1 平成 31 年度事業計画・収支予算の件
 - 2 平成 31 年度主要な人事の件

- 3 相馬ポニー牧場賠償請求の件
 - 4 蓼科ポニー牧場改修計画の件
 - 5 就業規則・賃金規程変更の件
 - 6 橋氏との営業委託契約の件
 - 7 職員への期末手当の件
 - 8 河内町・町有財産使用貸借契約書の件
 - 9 有志からの貸付募集の件
 - 10 日本政策金融公庫融資の件
- ② 委員会
- 人事・採用・研修委員会
3/5 前年度採用振り返り
- ③ その他
- 新年互礼会 (1/21)
 - 入職式 (4/1)
 - 平成 29 年度監査 (5/25)
 - 運営委員会 (4/12~13 5/10 6/5 7/2 9/5 10/9 11/20 12/10 1/8
2/6 3/20)
 - 場長会議 (4/17、7/3、7/10、9/6 12/5 1/22 2/19 3/20)
 - 女子会議 (3/4)
 - 河内町旧みずほ小活用に関するミーティング (2/9、2/19、3/10、3/18)

【会員】

29 年実績 (29 年 12 月 31 日)
 賛助会員 A 594 世帯 1,859 名
 賛助会員 B 85 名
 団体会員 0 団体

31 年 3 月 31 日時点
 賛助会員 A 490 世帯
 賛助会員 B 71 名
 団体会員 0 団体

【役職員】

評議員	15 名
理事	7 名
監事	2 名
顧問	1 名
職員	69 名
代々木	6 名
蓼科	5 名
碑文谷	7 名
葛飾	10 名
相模原	18 名
小貝川	4 名
万騎が原	3 名
板橋	7 名
上千葉	6 名
海老名	3 名
非常勤職員	70 名